

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	公共施設の有効利用が図られている		年度	平成28年度
	施策名	合併のメリットを生かした行政経営を行う	No.52 -2	責任部長
			主担当課長	行政課長
			関係課	スポーツ課、施設所管課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値				目標値	
			H18 H24	H20 H25	H21 H26	H22 H27		H23 H28
公共施設の稼働率(%)	①合併前の施設	→	44.0	44.6	45.3	45.5	44.4	53.5
	②合併後の施設		46.3	45.6	54.0	51.8	53.0	55.0
市民が公共施設を有効に利用していると思う人の割合(%)		→	45.2	47.3	47.2	48.8	48.1	45.6
			45.6	49.8	48.4	53.1	55.8	61.2
公共施設利用者の満足度(※満足度を5点満点で評価)		→	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.9
			3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	4.1

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

公共施設のあり方について利用が少ない施設には厳しい目が向けられるようになっている。
指定管理者制度の導入によって公共施設への民間事業者の参入が増加している。
民間のスポーツ施設が、多種多様なニーズに応え利用されている。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	B	公共施設の稼働率は横ばい状態であり、利用者の満足度も停滞しているため、より質の高いサービスを考える必要がある。
	停滞	



4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
施設の利便性が向上する	利用者が魅力を感じる事業の開催が増加する		
施設運営の見直し事業	公募指定管理者推進事業		
スポーツ施設予約システム運営事業			
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価	長期成果の設定は、利用者と施設の両面から捉えられており問題はない。また、各事務事業は施設の利便性の向上、運営面の改善が行われる内容となっており、長期成果が導かれると考える。		
次年度の改善計画	市民が公共施設を有効に利用していると思う人の割合は上昇しているものの公共施設利用者の満足度は横ばい状態であり、市としては引き続き各事務事業を推進していきたいと考える。		

市民からみた計画の進捗状況 □A □B □C

